

番号	6	平成29年度公共事業再評価調書		担当課名 道路整備課						
事業名	道路改築事業		事業主体	静岡県						
箇所名	一般国道150号 <sup>ほんなんに</sup> 磐南Ⅱバイパス		関係市町村	磐田市						
事業採択年度	平成 20 年度	計画期間	平成20年度 ~ 平成35年度							
用地着手年度	平成 21 年度	工事着手年度	平成 22 年度							
再評価理由※	再評価実施(H24)後5年間が経過した時点で継続中									
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	~H27年度	H28年度	H29年度見込	計				
	4,000		1,149	88	136	1,373				
事業概要	<p>(1)事業目的 一般国道150号は、県内中・西部地域の沿岸部の経済活動を支えるとともに、地域間交流にも重要な役割を担う幹線道路である。 現道の掛塚橋付近(石原町交差点~白羽交差点)は、慢性的な渋滞が発生しており、主要渋滞区間に指定されている。当バイパスの整備により渋滞解消を図り、安全で円滑な交通を確保することで、当地域の経済活性化に貢献する。</p> <p>(2)事業内容 計画概要：延長2,000m 計画幅員 車道13.0(全幅25.0)m 4車線バイパス(暫定2車線整備) 道路工1,903m、橋梁工97m</p>									
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 当該区間に対する現道交通量は、17,293台/日(H22センサ)と多い。また、当地区は磐田市のマスタープランにおいて、工業集積地区として位置付けられており、バイパス沿道では自動車関連工場を始め、新規の企業立地が進んでいる。今後、物流面からも大型車等の交通量増加が見込まれる。</p> <p>(2)事業の投資効果 現時点(H29)の分析結果：B/C=2.58 ・総便益(B) 93.06億円 走行時間短縮便益 81.56億円、走行経費減少便益 10.44億円 交通事故減少便益 1.06億円 ・総費用(C) 36.09億円 建設投資額36.75億円、維持管理費0.75億円、用地残存価値 -1.41億円 バイパス沿線には、多数の工業団地が立地しており、磐田市では工業製品の出荷額が増加(H23:7,131億円、H26:8,428億円約10%増加)。また、バイパス沿線の観光交流客数も増加(H23:1,239万人、H27:1,412万人14%増加)。バイパスの整備により、渋滞の緩和とともに、産業・観光の活性化が期待できる。</p> <p>(3)事業の進捗状況 【事業費】34.3%(H29d末見込み:1,373百万円/4,000百万円) 【事業量】0.0% 0m/2.0km 【用地面積】55.3% 35,989m<sup>2</sup>/65,064m<sup>2</sup> 【工事費】19.1%(H29d末見込み:5.22億円/27.33億円)</p>									
事業の必要性	<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>継続が妥当</td> <td>・ 視点3による見直し後継続が妥当</td> <td>・ 継続は妥当ではない</td> </tr> </table>						評価	継続が妥当	・ 視点3による見直し後継続が妥当	・ 継続は妥当ではない
評価	継続が妥当	・ 視点3による見直し後継続が妥当	・ 継続は妥当ではない							
【視点2】	<p>H29d、優先整備区間(1.3km)に残る1地権者と用地契約を締結する。優先整備区間における全ての事業用地の取得が完了予定である。H29d、道路工に一部着手予定であり、優先整備区間の早期供用を図り、事業の進捗を図っていく。</p>									
今後の事業の進捗の見込み	<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>継続が妥当</td> <td>・ 視点3による見直し後継続が妥当</td> <td>・ 継続は妥当ではない</td> </tr> </table>						評価	継続が妥当	・ 視点3による見直し後継続が妥当	・ 継続は妥当ではない
評価	継続が妥当	・ 視点3による見直し後継続が妥当	・ 継続は妥当ではない							
【視点3】	<p>これまでに、路体盛土として他工事で発生する土を一部流用するとともに、橋梁工では免震支承の採用など、コスト縮減を図っている。 今後も引き続き、新技術・新工法の活用、建設発生土の他工事流用によりコスト縮減を図っていく。</p>									
新たなコスト縮減・代替案立案等の可能性										
対応方針(案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を(継続)・見直し後継続・中止)する。</p> <p>(2)理由 本事業は、慢性的な渋滞対策としての事業効果が高く、事業も順調に進捗していることから、事業を継続し早期完成を図る。</p>									

## 一般国道 150 号 磐南Ⅱバイパス

(「費用便益分析マニュアル」国土交通省道路局 都市・地域整備局 平成 20 年 11 月)

### 総括表

I) 総便益 B	93.06 億円
便益=[評価期間内に当該路線を整備しなかった場合に発生する経費] －[評価期間内に当該路線を整備した場合に発生する経費]	
II) 総費用 C	36.09 億円
総費用=[当該計画道路の建設投資額]+[当該計画道路の検討期間内に必要となる維持管理費]	
III) 費用便益比 B/C	2.58

### I) 総便益の算出

#### ①各種費用の H42<sup>※1</sup>の便益

	走行時間費用 (億円/年)	走行費用 (億円/年)	交通事故損失額 (億円/年)	合計 (億円/年)
整備しなかった場合 A	1445.66	339.70	75.37	1860.73
整備した場合 B	1440.55	339.05	75.30	1854.90
便益 A-B	5.11 時間短縮便益	0.65 経費減少便益	0.07 <sup>※2</sup> 事故減少便益	5.83

- ・「時間便益」：道路整備による走行時間短縮を賃金率等で金銭評価
- ・「走行便益」：走行円滑化による燃費向上等に伴う走行経費節約を金銭評価
- ・「事故減少便益」：道路整備により交通事故件数が減少し事故の社会費用が減少する評価
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

※1 交通需要推計の適用年次

※2 事故減少便益は「費用便益分析マニュアル(国土交通省)」の算定式により算出しており、条件によってはマイナス値になることもあるが、交通事故増加に繋がるものではない。

#### ②総便益の算出

供用後 50 年間を評価期間としているため基準年の年間経費に各年の割引率をかけ、便益を算出し、当該道路を整備しなかった場合とした場合の差を求め、総便益とする。

	将来の便益 H31~H80	
総便益	<b>93.06</b>	…B

### II) 総費用の算出

[総費用]=[建設投資額]+[維持管理費]-[用地費の残存価値]

事業費 (億円)	建設投資額 (億円)	年間維持管理費 用(万円/年)	維持管理費 (億円)	用地残存価値 (億円)	総費用 (億円)
40.00	36.75	443.14	0.75	1.41	<b>36.09</b>

…C

- ・「建設投資額」：建設費用を算出基準年次の価値で評価するために各年次ごとに割引率をかけ、合計したもの。
- ・「維持管理費」：整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけ、供用後 50 年間を合計したもの。
- ・「用地費の残存価値」：検討期間後の残存価値を現在価値化したもの。
- ・表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。

## 位置図



## 標準横断面図



## 交通の円滑化

事業区間で並走する国道150号には主要渋滞区間が存在。バイパス整備により、国道150号現道の交通分散が図られ現道の渋滞が緩和、所要時間の短縮が期待される。

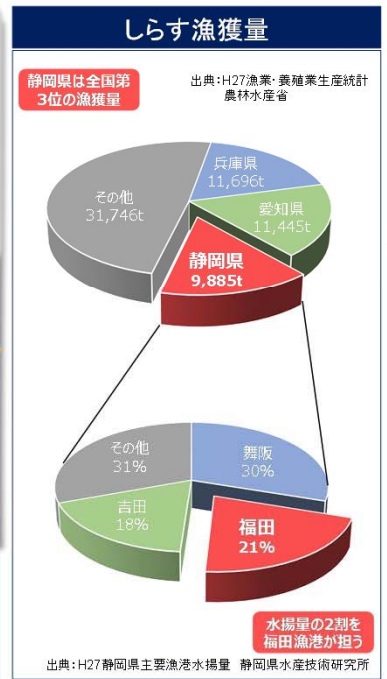
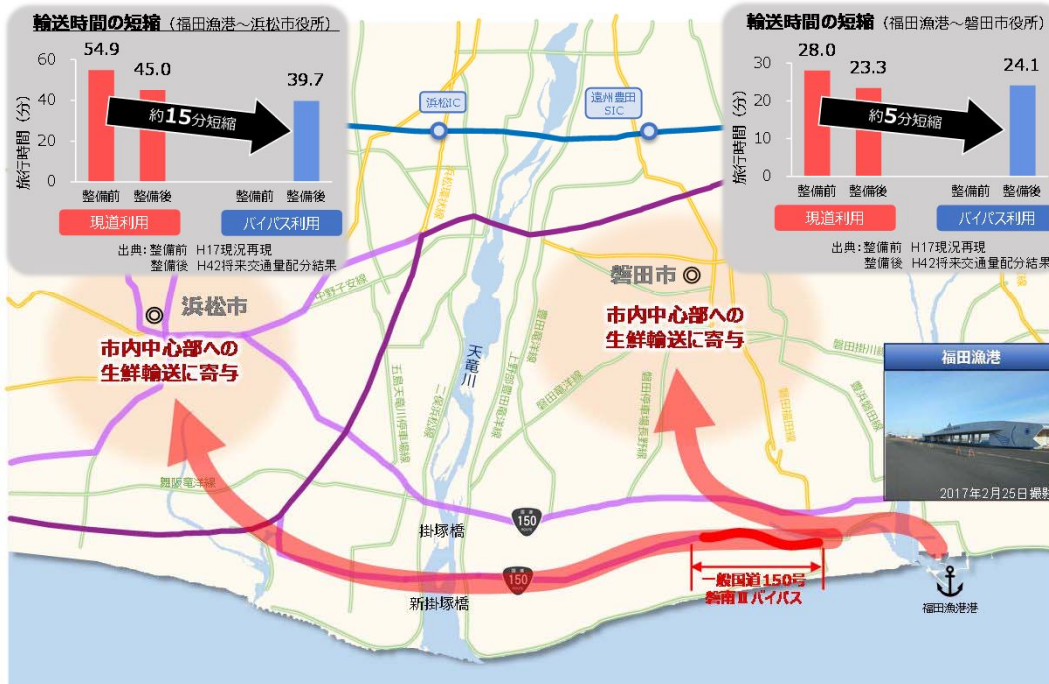


## 産業・観光活性化への寄与

国道150号沿線には工業団地が立地しており、御前崎港への重要な輸送経路となっている。竜洋・福田工業団地では工業製品出荷額が増加しており、バイパス整備により更なる増加が期待。



国道150号バイパス整備により、全国第3位のしらす漁獲量を支える福田漁港(県内第2位)から、磐田市内中心部及び浜松方面への物流に寄与する。



国道150号沿に立地する観光施設へのアクセス性が向上し、観光周遊の活性化が期待される。



**人気の観光施設が沿線に立地**

**竜洋海洋公園オートキャンプ場**

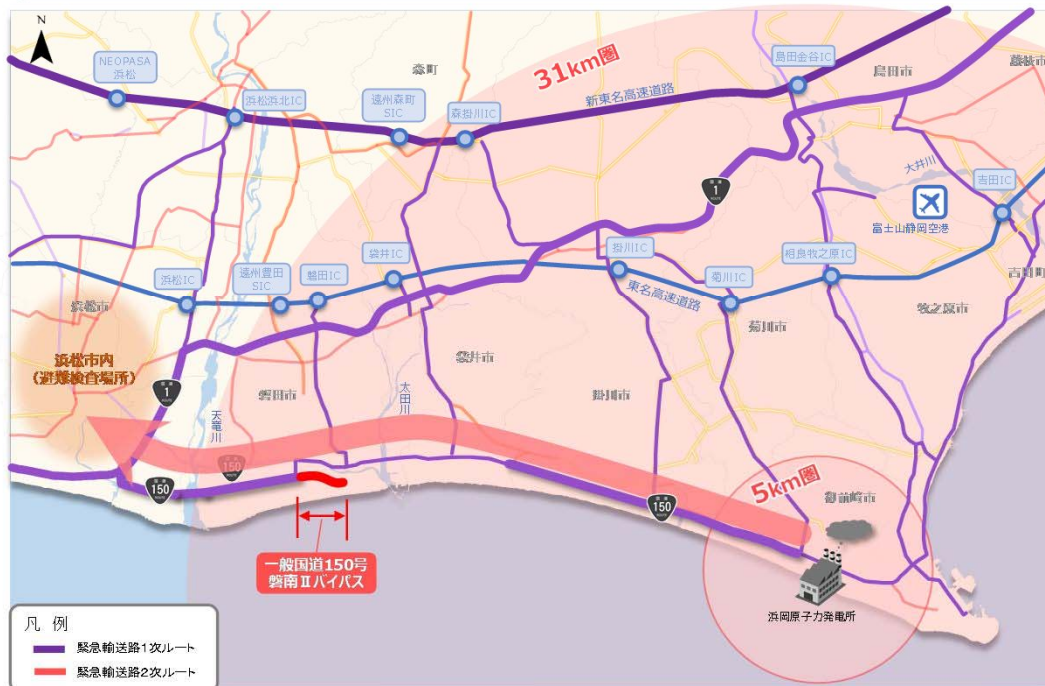
人気キャンプ場ランキング 西日本1位!

GARVY 2017年2&3月号

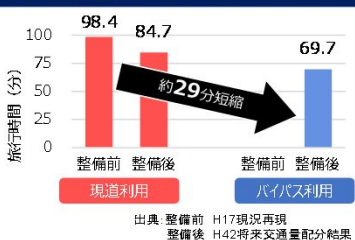
2017年2月25日撮影

# ■ 防災機能の強化

浜岡原子力災害時の浜松方面への避難に寄与する。



## 避難時間が短縮 (原発～浜松市役所)



区域の種類	区域の範囲
<b>PAZ</b> (予防的防汚措置を準備する区域)	<b>発電所から5kmを目安として区域を設定</b> ・御前崎市の全域 ・牧之原市の一部
<b>UPZ</b> (緊急時防護措置を準備する区域)	<b>発電所から31kmを目安として区域を設定</b> ・牧之原市のPAZの範囲を除く全域 ・掛川市の全域 ・掛川市の全域 ・吉田町の全域 ・袋井市の全域 ・焼津市の全域 ・藤枝市の一部 ・豊田市の一部 ・森町の一部 ・磐田市の一部

※赤字: 避難先が県西方の市町村  
※出典: 浜岡原子力災害広域避難計画 静岡県 (H28.3)